



## 割り込みとプライバシー

ワンボタン割り込み /C 割り込み機能、割り込み機能、プライバシー機能、および Privacy on Hold 機能は相互に作用します。これらの機能はシェアドラインだけで機能します。

割り込みは、進行中のコールにユーザを追加します。ソフトキーまたは機能ボタンを押すと、ユーザ（発信側）がシェアドライン コール（発信先）に追加され、現在通話中のユーザがビープ音を受信しませんが（設定されている場合）、割り込みは、ビルトイン会議ブリッジと共有会議ブリッジをサポートしています。

ワンボタン割り込み /C 割り込み機能を使用すると、ユーザは、シェアドライン ボタンを押すだけでコールに追加されます。ワンボタン割り込み /C 割り込み機能は、ビルトイン会議ブリッジと共有会議ブリッジをサポートしています。

管理者は、プライバシーおよび Privacy on Hold 機能を有効または無効にします。Privacy on Hold をアクティブにするには、デバイスでプライバシーが有効になっている必要があります。ユーザは、プライバシー機能のオンとオフを切り替えます。

管理者は、プライバシー設定を有効または無効にします。プライバシーが有効になっている場合、システムは回線を共有しているすべての電話機からコール情報を削除し、その他のシェアドラインがそのコールに割り込めないようにします。プライバシーが無効になっている場合、システムはシェアドライン アピアランスを持つすべての電話機でコール情報を表示し、その他のシェアドラインがそのコールに割り込めるようにします。管理者は、すべてのデバイスについてプライバシーを設定したり、またはデバイスごとにプライバシーを設定したりできます。ユーザは、プライバシー機能のオンとオフを切り替えます。

Privacy on Hold 機能は、シェアドラインのプライベート コールが保留状態にあるとき、プライバシーを保持します。Privacy on Hold が有効になっている場合、プライバシーが有効なときにブロックされる発呼者名および発呼番号は、コールが保留にされたときも引き続きブロックされ、システムは他のシェアドラインが保留中のコールを再開するのをブロックします。Privacy on Hold が無効になっており、プライベート コールが保留にされた場合、システムは、シェアドライン アピアランスを持つすべての電話機で発呼者名と発呼番号を表示し、他のシェアドラインが保留中のコールを再開するのを許可します。

Privacy on Hold が有効な場合、ユーザは、プライバシーをオンに切り替えることにより、コールの保留中にその機能をアクティブにできます。同様に、ユーザは、コールの保留中にプライバシーをオフに切り替えることにより、Privacy on Hold を非アクティブにできます。Privacy on Hold が無効な場合、プライバシーのオンまたはオフを切り替えても、保留中のコールには影響ありません。

プライバシー コールが保留状態で、同じ電話機で応答された後にオフに切り替えられた場合、システムは、シェアドライン アピアランスを持つすべての電話機でコール情報を表示しますが、別の電話機が保留中のコールを再開または割り込みできないようにします。

管理者は、すべてのデバイスについて、またはデバイスごとにプライバシーを設定できます。管理者は、クラスタに対して Privacy on Hold を設定します。

この章では、割り込みとプライバシーに関する次の情報を提供します。

- 「[割り込みの設定チェックリスト](#)」( P.1-2 )
- 「[プライバシーおよび Privacy on Hold の設定チェックリスト](#)」( P.1-4 )
- 「[割り込み、プライバシー、および Privacy on Hold の概要](#)」( P.1-6 )
- 「[Privacy on Hold](#)」( P.1-12 )
- 「[割り込みおよびプライバシーをサポートするデバイス](#)」( P.1-13 )
- 「[インタラクションおよび制限事項](#)」( P.1-14 )
- 「[割り込み、プライバシー、および Privacy on Hold のインストールとアクティブ化](#)」( P.1-17 )
- 「[割り込み、プライバシー、および Privacy on Hold の設定](#)」( P.1-18 )
- 「[割り込み、プライバシー、および Privacy on Hold 用のサービスパラメータの設定](#)」( P.1-19 )
- 「[関連項目](#)」( P.1-20 )

## 割り込みの設定チェックリスト

ワンボタン割り込み /C 割り込み機能、割り込み機能、プライバシー機能、および Privacy on Hold 機能は相互に作用します。これらの機能はシェアラインだけで機能します。

割り込みは、進行中のコールにユーザを追加します。ソフトキーまたは機能ボタンを押すと、ユーザ（発信側）がシェアライン コール（発信先）に追加され、現在通話中のユーザがビープ音を受信し（設定されている場合）、割り込みは、ビルトイン会議ブリッジと共有会議ブリッジをサポートしています。

ワンボタン割り込み /C 割り込み機能を使用すると、ユーザは、シェアライン ボタンを押すだけでコールに追加されます。ワンボタン割り込み /C 割り込み機能は、ビルトイン会議ブリッジと共有会議ブリッジをサポートしています。

表 1-1 に、ビルトイン会議ブリッジで割り込み機能を設定する際のチェックリストを示します。表 1-2 に、共有会議ブリッジで割り込み機能を設定する際のチェックリストを示します。プライバシー機能および Privacy on Hold 機能の設定チェックリストについては、表 1-3 を参照してください。割り込み機能の詳細については、「[割り込み、プライバシー、および Privacy on Hold の概要](#)」(P.1-6) および「[関連項目](#)」(P.1-20) を参照してください。

表 1-1 ビルトイン会議ブリッジでの割り込みの設定チェックリスト

| 設定手順  | 関連手順と関連項目  |
|---|--|
| <b>ステップ 1</b><br>ビルトイン会議ブリッジを使用して割り込みにアクセスする各デバイスに Standard User または Standard Feature ソフトキー テンプレート(どちらにも [ 割り込み ] ソフトキーが含まれています)を割り当てます。  | 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「 <a href="#">Cisco Unified IP Phone の設定</a> 」  |
| <b>ステップ 2</b><br>次のオプションの Cisco CallManager サービス パラメータを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>すべてのユーザに対して割り込みを有効にするには、クラスタ全体のサービス パラメータ Builtin Bridge Enable を [On] に設定します。</li> </ul> (注) このパラメータを [Off] にする場合は、[ 電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [ ビルトインブリッジ (Built In Bridge)] フィールドにより、各電話機に対して割り込みを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>クラスタ全体のサービス パラメータ Party Entrance Tone を [True] に設定します (ビープ音のために必要です)(または、[ 電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで電話番号ごとに [パーティ参加トーン (Party Entrance Tone)] 設定項目を設定します)。</li> <li>すべてのユーザに対してワンボタン割り込みを有効にするには、Single Button Barge/cBarge Policy を [Barge] に設定します。</li> </ul> (注) このパラメータを [Off] にする場合は、[ 電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [ワンボタン割り込み (Single Button Barge)] フィールドにより、各電話機に対してワンボタン割り込みを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>電話機が鳴っているときやコールが接続されるときに (割り込み側に呼び出し音が流れます) ユーザがコールに割り込めるようにするには、Allow Barge When Ringing サービス パラメータを [True] に設定します。</li> </ul> | 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「 <a href="#">サーバ上のサービスに対するサービスパラメータの設定</a> 」<br>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「 <a href="#">Cisco Unified IP Phone の設定</a> 」<br>「 <a href="#">パーティ参加トーンと割り込み、C 割り込み、またはワンボタン割り込み</a> 」(P.1-10)<br>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「 <a href="#">電話番号の設定値</a> 」 |
| <b>ステップ 3</b><br>[ エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウで、ビルトイン会議ブリッジ機能で割り込みにアクセスできる各ユーザに対し、[ 割り込み ] ソフトキー テンプレートが割り当てられたデバイスを関連付けます。   | 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「 <a href="#">エンドユーザの設定</a> 」   |
| <b>ステップ 4</b><br>割り込み機能が使用可能であることをユーザに通知します。  | ユーザが Cisco Unified IP Phone で割り込みにアクセスする方法については、電話機のマニュアルを参照してください。  |

## ■ プライバシーおよび Privacy on Hold の設定チェックリスト

表 1-2 に、共有会議ブリッジで割り込みを設定する際のチェックリストを示します。

表 1-2 共有会議ブリッジ (C 割り込み) での割り込みの設定チェックリスト

| 設定手順   | 関連手順と関連項目   |
|--|---|
| <b>ステップ 1</b> C 割り込みを含むソフトキー テンプレートを作成するには、Standard Feature ソフトキー テンプレートのコピーを作成します。このユーザが名前を付けたコピーを変更し、リモートで使用中のコール状態で [ 選択されたソフトキー (Selected Softkeys、位置順) ] リストに [Conference Barge(cBarge)] ソフトキーを追加します。   | 標準のソフトキー テンプレートのコピーを作成する方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の、非標準ソフトキー テンプレートの追加に関する項を参照してください。<br>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」 |
| <b>ステップ 2</b> オプションのクラスタ全体のサービス パラメータ Party Entrance Tone を [True] に設定します (ビープ音のために必要です)。または、[ 電話番号の設定 (Directory Number Configuration) ] ウィンドウで電話番号ごとに [パーティ参加トーン (Party Entrance Tone)] 設定項目を設定します。<br><br>すべてのユーザに対してワンボタン C 割り込みを有効にするには、Single Button Barge/cBarge Policy を [cBarge] に設定します。<br><br>(注) このパラメータを [Off] にする場合は、[ 電話の設定 (Phone Configuration) ] ウィンドウの [ワンボタン割り込み (Single Button Barge)] フィールドにより、各電話機に対してワンボタン C 割り込みを設定します。 | 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「サーバ上のサービスに対するサービス パラメータの設定」<br>「パーティ参加トーンと割り込み、C 割り込み、またはワンボタン割り込み」 (P.1-10)<br>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「電話番号の設定値」           |
| <b>ステップ 3</b> [ エンドユーザの設定 (End User Configuration) ] ウィンドウで、共有会議ブリッジ機能で C 割り込みにアクセスできる各ユーザに対し、[C 割込] ソフトキー テンプレートが割り当てられたデバイスを関連付けます。<br><br>電話機のプライバシーを無効にして、C 割り込みを許可します。  | 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「エンドユーザの設定」  |
| <b>ステップ 4</b> C 割り込み機能が使用可能であることをユーザに通知します。  | ユーザが Cisco Unified IP Phone で C 割り込みにアクセスする方法については、電話機のマニュアルを参照してください。  |

## プライバシーおよび Privacy on Hold の設定チェックリスト

ワンボタン割り込み / C 割り込み機能、割り込み機能、プライバシー機能、および Privacy on Hold 機能は相互に作用します。これらの機能はシェアドラインだけで機能します。

Privacy on Hold 機能は、シェアドラインのプライベート コールが保留状態にあるとき、プライバシーを保持します。Privacy on Hold が有効になっている場合、プライバシーが有効なときにブロックされる発呼者名および発呼番号は、コールが保留にされたときも引き続きブロックされ、システムは他のシェアドラインが保留中のコールを再開するのをブロックします。Privacy on Hold が無効になっており、プライベート コールが保留にされた場合、システムは、シェアドライン アピアランスを持つすべての電話機で発呼者名と発呼番号を表示し、他のシェアドラインが保留中のコールを再開するのを許可します。

管理者は、プライバシー設定を有効または無効にします。プライバシーが有効になっている場合、システムは回線を共有しているすべての電話機からコール情報を削除し、その他のシェアドラインがそのコールに割り込めないようにします。プライバシーが無効になっている場合、システムはシェアドライン アピアランスを持つすべての電話機でコール情報を表示し、その他のシェアドラインがそのコールに割り込めるようにします。管理者は、すべてのデバイスについてプライバシーを設定したり、またはデバイスごとにプライバシーを設定したりできます。ユーザは、プライバシー機能のオンとオフを切り替えます。

Privacy on Hold が有効な場合、ユーザは、プライバシーをオンに切り替えることにより、コールの保留中にその機能をアクティブにできます。同様に、ユーザは、コールの保留中にプライバシーをオフに切り替えることにより、Privacy on Hold を非アクティブにできます。Privacy on Hold が無効な場合、プライバシーのオンまたはオフを切り替えても、保留中のコールには影響ありません。

プライバシー コールが保留状態で、同じ電話機で応答された後にオフに切り替えられた場合、システムは、シェアドライン アピアランスを持つすべての電話機でコール情報を表示しますが、別の電話機が保留中のコールを再開または割り込みできないようにします。

管理者は、すべてのデバイスについて、またはデバイスごとにプライバシーを設定できます。管理者は、クラスタに対して Privacy on Hold を設定します。

表 1-3 に、プライバシー機能を設定する際のチェックリストを示します。表 1-1 に、ビルトイン会議ブリッジで割り込み機能を設定する際のチェックリストを示します。表 1-2 に、共有会議ブリッジで割り込み機能を設定する際のチェックリストを示します。プライバシーの詳細については、「[割り込み、プライバシー、および Privacy on Hold の概要](#)」(P.1-6) および「[関連項目](#)」(P.1-20)を参照してください。

表 1-3 プライバシーおよび Privacy on Hold 設定チェックリスト

| 設定手順  | 関連手順と関連項目   |
|---|---|
| <b>ステップ 1</b><br>クラスタ内のすべての電話機でプライバシーへのアクセスが必要な場合は、クラスタ全体のサービス パラメータ Privacy Setting を [True] (デフォルト) のままにし、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [プライバシー (Privacy)] フィールドを [デフォルト (Default)] のままにします。引き続き、次の手順を実行します。<br><br>クラスタ内の特定の電話機だけでプライバシーへのアクセスが必要な場合は、Privacy Setting サービス パラメータを [False] に設定し、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [プライバシー (Privacy)] フィールドを [オン (On)] に設定します。引き続き、次の手順を実行します。 | 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「 <a href="#">サーバ上のサービスに対するサービスパラメータの設定</a> 」<br><br>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「 <a href="#">Cisco Unified IP Phone の設定</a> 」 |
| <b>ステップ 2</b><br>プライバシーのある電話ボタン テンプレートごとに、機能ボタンのいずれかにプライバシーを追加します (電話機モデルの中には、プライバシー ボタンを使用するものもあります)。  | 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「 <a href="#">電話ボタン テンプレートの設定</a> 」  |
| <b>ステップ 3</b><br>プライバシーが必要な電話機ユーザごとに、Privacy 機能ボタンを含む電話ボタン テンプレートを選択します。  | 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「 <a href="#">Cisco Unified IP Phone の設定</a> 」   |
| <b>ステップ 4</b><br>[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウで、シェアドライン アピアランスに関する情報を表示しないユーザごとに、Privacy 機能ボタンが割り当てられたデバイスを関連付けます。   | 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「 <a href="#">エンドユーザの設定</a> 」  |

表 1-3 プライバシーおよび Privacy on Hold 設定チェックリスト（続き）

| 設定手順   | 関連手順と関連項目   |
|--|---|
| ステップ 5<br>オプションの Privacy on Hold 機能を設定するには、Enforce Privacy Setting on Held Calls サービスパラメータを [True] に設定します。 | 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「サーバ上のサービスに対するサービスパラメータの設定」 |
| ステップ 6<br>プライバシー機能と Privacy on Hold 機能（設定されている場合）が使用可能であることをユーザに通知します。                                     | ユーザが Cisco Unified IP Phone でプライバシーにアクセスする方法については、電話機のマニュアルを参照してください。             |

## 割り込み、プライバシー、および Privacy on Hold の概要

次の各項で、割り込みとプライバシーについて説明します。

- 「割り込み」(P.1-6)
- 「ワンボタン割り込み /C 割り込み」(P.1-7)
- 「プライバシー」(P.1-11)
- 「Privacy on Hold」(P.1-12)

### 割り込み

割り込みを使用すると、シェアライン上のリモートでアクティブなコールにユーザを追加できます。回線のリモートでアクティブなコールとは、その回線で電話番号を共有する別のデバイスとの間のアクティブな（接続された）コールのことです。割り込みは、この種のリモートで使用中のコールをサポートします。

電話機は次の 2 つの会議モードで割り込みをサポートします。

- 発信先デバイス（割り込まれる電話機）でのビルトイン会議ブリッジ。このモードは [割り込み] ソフトキーを使用します。
- 共有会議ブリッジ。このモードは [C 割込] ソフトキーを使用します。

ユーザがリモートで使用中のコール状態で [割り込み] ソフトキーまたは [C 割込] ソフトキーを押すと、ユーザがコールに追加されてすべての参加者と通話できるようになり、参加者はすべて割り込みビープ音を受信します（設定されている場合）。割り込みが失敗した場合、元のコールとステータスはアクティブなままです。

使用可能な会議ブリッジ（組み込みまたは共有）がない場合、割り込み要求は拒否され、割り込みの発信側のデバイスにメッセージが表示されます。

## ワンボタン割り込み /C 割り込み

ワンボタン割り込み /C 割り込み機能を使用すると、ユーザは、リモートでアクティブなコールのシェアライン ボタンを押すだけで、コールに追加されてすべての参加者と通話できるようになります。参加者はすべて割り込みビープ音を受信します（設定されている場合）。割り込みが失敗した場合、元のコールとステータスはアクティブなままです。

電話機は次の2つの会議モードでワンボタン割り込み /C 割り込みをサポートします。

- 発信先デバイス（割り込まれる電話機）でのビルトイン会議ブリッジ。このモードはワンボタン割り込み機能を使用します。
- 共有会議ブリッジ。このモードはワンボタン C 割り込み機能を使用します。

リモートで使用中のコールのシェアライン ボタンを押すと、そのユーザはコールに追加されてすべての参加者と通話できるようになり、参加者はすべて割り込みビープ音を受信します（設定されている場合）。割り込みが失敗した場合、元のコールとステータスはアクティブなままです。

使用可能な会議ブリッジ（組み込みまたは共有）がない場合、割り込み要求は拒否され、割り込みの発信側のデバイスにメッセージが表示されます。

表 1-4 に、ビルトイン会議ブリッジと共有会議ブリッジでの割り込みの違いを示します。

表 1-4 ビルトイン会議ブリッジと共有会議ブリッジの違い

| アクション   | [ 割り込み ] ソフトキーまたはワンボタン割り込み機能を使用（発信先デバイスでのビルトイン会議ブリッジ） | [C 割込] ソフトキーまたはワンボタン C 割り込み機能を使用（共有会議ブリッジ） |
|---|---|--|
| 標準ソフトキー テンプレートにこのソフトキーが含まれている。<br><br>(注) ワンボタン割り込み /C 割り込み機能が有効の場合、ソフトキーは使用しません。 | はい  | いいえ  |
| 割り込み設定中にメディアが中断される。   | いいえ   | はい   |
| 設定されている場合は、ユーザが割り込み設定音を受信する。  | はい  | はい   |
| 割り込みの発信側の電話機に名前として表示される内容。  | To Barge XXX  | To Conference                              |
| 発信先の電話機に名前として表示される内容。   | To/From Other   | To Conference                              |
| その他発信先の電話機に名前として表示される内容。  | To/From Target  | To Conference                              |
| ブリッジが、すでに割り込まれているコールへの第2の割り込み設定をサポートしている。   | いいえ   | はい   |

表 1-4 ビルトイン会議ブリッジと共有会議ブリッジの違い（続き）

| アクション                                | [ 割り込み ] ソフトキーまたはワンボタン割り込み機能を使用（発信先デバイスでのビルトイン会議ブリッジ） | [ C 割込 ] ソフトキーまたはワンボタン C 割り込み機能を使用（共有会議ブリッジ）                                     |
|--------------------------------------|---|--|
| 発信側がコールをリリースする。                      | 2 人の元のユーザに対してメディアが中断されない。                             | ユーザが 2 人だけ残っている場合に共有会議ブリッジをリリースして、残っている両ユーザをポイントツーポイントコールとして再接続するために、メディアが中断される。 |
| 発信先がコールをリリースする。                      | 発信側を発信先にポイントツーポイントコールとして再接続するために、メディアが中断される。          | ユーザが 2 人だけ残っている場合に共有会議ブリッジをリリースして、残っている両ユーザをポイントツーポイントコールとして再接続するために、メディアが中断される。 |
| もう一方のユーザがコールをリリースする。                 | 3 人のユーザすべてがリリースされる。                                   | ユーザが 2 人だけ残っている場合に共有会議ブリッジをリリースして、残っている両ユーザをポイントツーポイントコールとして再接続するために、メディアが中断される。 |
| 発信先がコールを保留にし、直接転送、参加、またはコールパークを実行する。 | 発信側がリリースされる。  | 発信側ともう一方のユーザは接続されたままになる。   |

## ビルトイン会議を使用した割り込み：ワンボタン割り込み機能または [ 割り込み ] ソフトキー

ワンボタン割り込み機能または [ 割り込み ] ソフトキーは、リモートで使用中のコール状態だけで使用できます。ビルトイン会議ブリッジは、割り込みの設定時にメディアの中断や元のコールへの表示変更が起こらないので、便利です。



(注) ワンボタン割り込み機能を使用するには、この機能をデバイスで有効にする必要があります。

割り込みの発信側がコールをリリースすると、割り込みの発信側と発信先の間で割り込みコールがリリースされます。発信先デバイスともう一方のデバイスの間の元のコールはアクティブなままです。残っているすべてのユーザに対して割り込み切断トーン（ビープ音）が再生されます。

発信先デバイスがコールをリリースすると、割り込みの発信側ともう一方のデバイスの間のメディアが一時的に中断され、その後ポイントツーポイントコールとして再接続されます。接続されたデバイスを反映するため、割り込みの発信側のデバイスで表示が変更されます。

もう一方のデバイスがコールをリリースすると、元のコールと割り込みコールの両方がリリースされます。

割り込みの発信側がコールを保留にした場合、発信先デバイスともう一方のデバイスではコールが継続されます。



発信先デバイスがコールを保留または会議の状態にした場合やコールを転送した場合、割り込みの発信側は割り込みコールからリリースされ、元のコールは保留または会議の状態になるか、転送されます。発信先でメディアが再確立されると、割り込みの発信側はコールに再び割り込むことができます。

もう一方のユーザがコールを保留や会議の状態にした場合やコールを転送した場合は、発信先デバイスと割り込みの発信側の両方でコールが継続されます。

ネットワークや Cisco Unified Communications Manager で障害が発生した場合、割り込みコールは（すべてのアクティブなコールと同様に）保持されます。

ほとんどの Cisco Unified IP Phone に、割り込み機能が使用するビルトイン会議ブリッジ機能があります。



(注) Cisco Unified IP Phone 7940 および 7960 では、2つのメディアストリーム暗号化と SRTP ストリームを同時にサポートすることはできません。この条件によって動作が不安定にならないよう、システムでは、デバイスセキュリティモードが [暗号化 (Encrypted)] に設定されたときは、Cisco Unified IP Phone 7940 および 7960 のビルトインブリッジを自動的に使用不可にします。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』を参照してください。

次の設定によって、ビルトイン会議ブリッジが有効または無効になります。

- Cisco Unified Communications Manager のクラスタ全体のサービスパラメータ Builtin Bridge Enable をオンまたはオフに設定することによって、ビルトインブリッジを有効または無効にします。
- [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで [ビルトインブリッジ (Built In Bridge)] ドロップダウンリストボックスを使用することにより ([オン (On)]、[オフ (Off)]、または [デフォルト (Default)] を選択)、各デバイスに対してビルトインブリッジを有効または無効にします。[オン (On)] または [オフ (Off)] に設定すると、Builtin Bridge Enable サービスパラメータが上書きされます。デフォルトを選択すると、サービスパラメータの設定が使用されます。



(注) ビルトインブリッジで割り込みを使用するには、前の項目が有効であること、プライバシーが無効であること、各デバイスに [割り込み] ソフトキーが割り当てられているか、またはワンボタン割り込み機能が有効になっていることを確認します。ビルトインブリッジで割り込みを使用しない場合は、共有会議ブリッジを使用するため、各デバイスに [C 割込] ソフトキーを割り当てるか、ワンボタン C 割り込み機能を有効にします。

詳細については、「[割り込み、プライバシー、および Privacy on Hold の設定](#)」(P.1-18) を参照してください。

#### 追加情報

「[関連項目](#)」(P.1-20) を参照してください。

## 共有会議を使用した割り込み：ワンボタン C 割り込み機能または [C 割込] ソフトキー

ワンボタン C 割り込み機能または [C 割込] ソフトキーは、リモートで使用中のコール状態だけ使用できます。標準ソフトキー テンプレートには、[C 割込] ソフトキーは含まれていません。[C 割込] ソフトキーを使用するには、管理者がそれをソフトキー テンプレートに追加し、そのソフトキー テンプレートをデバイスに割り当てます。



(注) ワンボタン C 割り込み機能を使用するには、この機能をデバイスで有効にする必要があります。

[C 割込] ソフトキー（またはシェアライン ボタン）を押すと、共有会議ブリッジが使用可能な場合はそれを使用して割り込みコールが設定されます。元のコールは分割され、会議ブリッジで結合されます。このため、一時的にメディアが中断されます。すべての参加者のコール情報が割り込みに変更されます。

割り込まれたコールは会議コールになり、割り込みの発信先デバイスが会議コントローラになります。これは、会議へのその他のユーザの追加やユーザの切断を実行できます。

いずれかのユーザがコールからリリースされ、会議にユーザが 2 人だけ残った場合、その 2 人のユーザは一時的に中断され、その後ポイントツーポイント コールとして再接続されます。この再接続によって、共有会議リソースがリリースされます。

詳細については、「[割り込み、プライバシー、および Privacy on Hold の設定](#)」(P.1-18) を参照してください。

### 追加情報

「[関連項目](#)」(P.1-20) を参照してください。

## 割り込みの電話機表示メッセージ

ユーザが SIP デバイスへの割り込みを開始した場合、割り込みの発信側の電話機には「To Barge <表示名> (Shared Line DN)」と表示されます。

ユーザが SCCP デバイスへの割り込みを開始した場合、割り込みの発信側の電話機には「To Barge <表示名>」と表示されます。

## パーティ参加トーンと割り込み、C 割り込み、またはワンボタン割り込み

パーティ参加トーン機能を使用すると、基本コールがマルチパーティ コールに変更されたとき、つまり基本コールが割り込みコール、C 割り込みコール、アドホック会議、ミーティング、または参加コールに変更されたときに、電話機でトーンが再生されます。また、ユーザがマルチパーティ コールから退席したときにも別のトーンが再生されます。

制御側デバイス、つまりマルチパーティ コールの発信側がビルトイン ブリッジを使用している場合、制御側デバイスにパーティ参加トーンを設定すると、すべてのユーザにトーンが再生されます。制御側デバイスがコールから退席すると、Cisco Unified Communications Manager でコール上の別のデバイスがトーンを再生できるかどうかを確認されます。コール上の別のデバイスがトーンを再生できる場合、Cisco Unified Communications Manager によってトーンが再生されます。制御側デバイスがトーンを再生できない場合、パーティ参加トーン機能を有効にしても、Cisco Unified Communications Manager でトーンは再生されません。

割り込みコールが作成された場合、割り込み発信側と回線を共有している割り込み発信先のパーティ参加トーン設定により、Cisco Unified Communications Manager でパーティ参加トーンを再生するかどうかが決まります。

C 割り込みコールが作成された場合、C 割り込み発信側と回線を共有している C 割り込み発信先のパーティ参加トーン設定により、Cisco Unified Communications Manager でパーティ参加トーンを再生するかどうかが決まります。ただし、発信先のコールが同じクラスタ内の既存のアドホック会議の場合、アドホック会議コントローラのパーティ参加トーン設定により、Cisco Unified Communications Manager でトーンを再生するかどうかが決まります。

パーティ参加トーン機能を使用するには、デバイスのプライバシー機能をオフにするとともに、マルチパーティ コール の制御側デバイスでビルトイン ブリッジを使用できるようにする必要があります。また、Cisco CallManager サービスおよびクラスタ全体をサポートしている Party Entrance Tone サービス パラメータを設定するか、[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウ ([コールルーティング (Call Routing)] > [電話番号 (Directory Number)]) で電話番号ごとに [パーティ参加トーン (Party Entrance Tone)] 設定項目を設定します。サービスパラメータの詳細については、[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウの疑問符ボタンをクリックしてください。[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウの [パーティ参加トーン (Party Entrance Tone)] 設定の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「電話番号の設定値」を参照してください。

## プライバシー

プライバシーを使用すると、同じ回線（電話番号）を共有する電話機のユーザのコールステータス表示機能やコールへの割り込み機能を有効または無効にできます。クラスタ内の各電話機またはすべての電話機でプライバシーを有効または無効にできます。

デフォルトでは、クラスタ内のすべての電話機でプライバシーが有効になっています。すべての電話機でプライバシーを有効にするには、クラスタ全体のサービスパラメータを [True] のままにし、電話機のプライバシー設定をデフォルトのままにします。

特定の電話機にプライバシーへのアクセスを設定するには、次の手順を実行して、プライバシーを有効または無効にします。

- サービスパラメータを設定します。
- 電話機のプライバシー設定を [On] に設定します。
- 電話ボタン テンプレートに Privacy ボタンを追加します。
- Privacy ボタンのある電話ボタン テンプレートを各デバイスに追加します。

プライバシー用に設定したデバイスを Cisco Unified Communications Manager に登録すると、プライバシーを有効にして設定された電話機の機能ボタンにラベルが付けられ、そのステータスがアイコンで示されます。ボタンにランプがある場合は、点灯します。

電話機が着信コールを受信すると、ユーザは Privacy 機能ボタンを押してそのコールをプライベートにします（したがって、シェアドラインにコール情報は表示されません）。Privacy 機能ボタンはオンとオフを切り替えることができます。

### 追加情報

[「関連項目」\(P.1-20\)](#) を参照してください。

## Privacy on Hold

Privacy on Hold 機能を使用すると、同じ回線（電話番号）を共有する電話機のユーザのコールステータス表示機能や保留コールへの応答機能を有効または無効にできます。

管理者は、クラスタ内のすべての電話機で Privacy on Hold を有効または無効にできます。Privacy on Hold を有効にするには、その電話機またはすべての電話機でプライバシー機能を有効にする必要もあります。Privacy on Hold を有効にすると、すべてのプライベート コールで Privacy on Hold が自動的にアクティブになります。

デフォルトでは、クラスタ内のすべての電話機で Privacy on Hold が無効になっています。すべての電話機で Privacy on Hold を有効にするには、クラスタ全体のプライバシー サービス パラメータを [True] に設定し、クラスタ全体の Enforce Privacy Setting on Held Calls サービス パラメータを [True] に設定して、電話機のプライバシー設定をデフォルトの設定のままにします。

特定の電話機で Privacy on Hold へのアクセスを設定するには、Enforce Privacy Setting on Held Calls サービス パラメータを [True] に設定し、電話機のプライバシー設定を [True] に設定します。

- Enforce Privacy Setting on Held Calls サービス パラメータを [True] に設定します。
- プライバシー サービス パラメータを設定します。
- 電話機のプライバシー設定を [On] に設定します。
- 電話ボタン テンプレートに Privacy ボタンを追加します。
- Privacy ボタンのある電話ボタン テンプレートを各デバイスに追加します。

Privacy on Hold をアクティブにするには、プライベート コール中にユーザが [保留] ソフトキーまたは保留ボタンを押します。コールに戻るには、ユーザが [復帰] ソフトキーを押します。コールを保留にした電話機には、保留中のコールのステータス インジケータが表示されます。シェアラインでは、プライベートおよび保留中のコールのステータス インジケータが表示されます。

## 割り込み、プライバシー、および Privacy on Hold のシステム要件

割り込み機能とプライバシー機能が動作するには、次のソフトウェア コンポーネントが必要です。

- Cisco Unified Communications Manager 5.0 以降

ワンボタン割り込み /C 割り込み機能と Privacy on Hold 機能が動作するには、次のソフトウェア コンポーネントが必要です。

- Cisco Unified Communications Manager 6.1(1) 以降

ワンボタン割り込み /C 割り込み機能か、[割り込み] ソフトキーまたは [C 割込] ソフトキーを使用してどの IP Phone が割り込みをサポートしているかを判断するには、「[割り込みおよびプライバシーをサポートするデバイス](#)」(P.1-13) を参照してください。

どの IP Phone が電話ボタン テンプレートの Privacy ボタンでプライバシーをサポートしているかを判断するには、「[割り込みおよびプライバシーをサポートするデバイス](#)」(P.1-13) を参照してください。



(注)

電話機が Privacy ボタンをサポートしていない場合、デフォルトでは、その電話機のプライバシーは [Off] のままです（その電話機と回線を共有するすべてのデバイスが電話情報を表示します）。

どの IP Phone がビルトイン会議ブリッジ機能をサポートしているかを判断するには、「[割り込みおよびプライバシーをサポートするデバイス](#)」(P.1-13) を参照してください。

# 割り込みおよびプライバシーをサポートするデバイス

割り込みおよびプライバシーをサポートする IP Phone の詳細なリストを生成するには、Cisco Unified Reporting アプリケーションを使用します。そのためには、次の手順に従います。

1. 次のいずれかの方法を使用して、Cisco Unified Reporting を起動します。

Web アプリケーションへのアクセスを許可されるまで、ユーザの認証には Cisco Tomcat サービスが使用されます。アプリケーションには次の方法でアクセスできます。

- Cisco Unified Communications Manager の管理ページのナビゲーションメニューで [Cisco Unified Reporting] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool ( RTMT ) メニューで [File] > [Cisco Unified Reporting] の順に選択します。
- `https://<サーバ名またはIPアドレス>:8443/cucreports/` と入力し、認証済みのユーザ名とパスワードを入力します。

2. ナビゲーションバーで、[System Reports] をクリックします。

3. 左側のカラムに表示されたレポートのリストで、[Unified CM Phone Feature List] オプションをクリックします。

4. [Generate a new report] リンクをクリックして新規レポートを生成するか、または、レポートがすでに存在する場合は、[Unified CM Phone Feature List] リンクをクリックします。

5. ビルトインブリッジをサポートするすべての IP Phone のレポートを生成するには、対応するドロップダウンリストボックスから次の設定を選択し、[Submit] ボタンをクリックします。

[Product] : [All]

[Feature] : [Built In Bridge]

[List Features] ペインに、ビルトインブリッジ機能をサポートするすべてのデバイスのリストが表示されます。カラムの見出し ([Product] または [Protocol]) の隣にある上下の矢印キーをクリックして、リストをソートできます。

6. プライバシーをサポートするすべてのデバイスのレポートを生成するには、対応するドロップダウンリストボックスから次の設定を選択し、[Submit] ボタンをクリックします。

[Product] : [All]

[Feature] : [Privacy]

[List Features] ペインに、プライバシー機能をサポートするすべてのデバイスのリストが表示されます。カラムの見出し ([Product] または [Protocol]) の隣にある上下の矢印キーをクリックして、リストをソートできます。

7. ワンボタン割り込みをサポートするすべてのデバイスのレポートを生成するには、対応するドロップダウンリストボックスから次の設定を選択し、[Submit] ボタンをクリックします。

[Product] : [All]

[Feature] : [Single Button Barge]

[List Features] ペインに、ワンボタン割り込み機能をサポートするすべてのデバイスのリストが表示されます。カラムの見出し ([Product] または [Protocol]) の隣にある上下の矢印キーをクリックして、リストをソートできます。

Cisco Unified Reporting アプリケーションの詳細については、次の URL の『Cisco Unified Reporting Administration Guide』を参照してください。

[http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod\\_maintenance\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html)

# インタラクションおよび制限事項

次の項では、割り込み、プライバシー、および Privacy on Hold におけるインタラクションと制限事項について説明します。

- 「インタラクション」(P.1-14)
- 「制限事項」(P.1-16)

## インタラクション

次の各項では、割り込みとプライバシーが Cisco Unified Communications Manager アプリケーションおよびコール処理と通信する方法について説明します。

- 「割り込みと C 割り込み」(P.1-14)
- 「割り込みとコール パーク」(P.1-14)
- 「割り込みと参加」(P.1-14)
- 「PLAR に対する割り込み、C 割り込み、およびワンボタン割り込みのサポート」(P.1-15)

## 割り込みと C 割り込み

[ 割り込み ] ソフトキーまたは [ C 割込 ] ソフトキーのいずれかをソフトキー テンプレートに割り当てることをお勧めします。各デバイスにこれらのソフトキーのいずれかだけを割り当てることにより、ユーザの混乱を避け、パフォーマンスの問題が発生する可能性を防ぎます。



(注) デバイスに対してワンボタン割り込みまたはワンボタン C 割り込みを有効にできます。ただし、両方同時に有効にはできません。

## 割り込みとコール パーク

発信先がコールをパークした場合は、割り込みの発信側がリリースされるか（ビルトインブリッジを使用している場合）、割り込みの発信側ともう一方のデバイスが接続されたままになります（共有会議を使用している場合）。

## 割り込みと参加

発信先がコールを別のコールと結合した場合は、割り込みの発信側がリリースされるか（ビルトインブリッジを使用している場合）、割り込みの発信側ともう一方のデバイスが接続されたままになります（共有会議を使用している場合）。

## PLAR に対する割り込み、C 割り込み、およびワンボタン割り込みのサポート

割り込み、C 割り込み、またはワンボタン割り込みの発信側は、PLAR 用に設定されている共有回線を介してコールに割り込むことができます。つまり、割り込みの発信先でコール中に PLAR 回線に関連付けられる事前設定番号が使用されている場合、発信側はコールに割り込むことができます。Cisco Unified Communications Manager では、割り込みコールの接続前に PLAR 回線に割り込み呼び出しを送信することはありません。そのため、割り込みは PLAR 接続先の状態に関係なく行われます。

割り込み、C 割り込み、またはワンボタン割り込みを PLAR と連携させるには、「[割り込みの設定チェックリスト](#)」(P.1-2) の説明に従って、割り込み、C 割り込み、またはワンボタン割り込みを設定する必要があります。また、PLAR 接続先 (PLAR 専用の電話番号) の設定も必要です。次の例では、SCCP を実行している電話機および SIP を実行している電話機に対して PLAR 機能を有効にする方法について説明します。

A および A' は、割り込み、C 割り込み、またはワンボタン割り込み用に設定しているシェアードライン デバイスを表します。B1 は、PLAR 接続先の電話番号を表します。SIP を実行している A/A' から PLAR 機能を有効にする方法については、次の例を参照してください。



### ヒント

**ステップ 1 ~ ステップ 4** は、SCCP を実行している電話機に対して PLAR を設定する場合に適用されます。SIP を実行している電話機に対しては、**ステップ 1 ~ ステップ 6** を実行してください。

### PLAR の設定例

- 
- ステップ 1** パーティション (P1 など) とコーリング サーチ スペース (CSS1 など) を作成して、CSS1 に P1 を含めます (Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[コールルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] > [パーティション (Partition)] または [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] を選択します)。
- ステップ 2** コーリング サーチ スペース CSS1 とパーティション P1 を含むトランスレーション パターン (TP1 など) を作成します。ヌルパターン (空白パターン) を作成し、[着信側トランスフォーメーションマスク (Called Party Transformation Mask)] フィールドには必ず B1 PLAR 接続先の電話番号を入力します (Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[コールルーティング (Call Routing)] > [トランスレーションパターン (Translation Pattern)] を選択します)。
- ステップ 3** コーリング サーチ スペース CS1 を A または A' に割り当てます (Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します)。
- ステップ 4** P1 パーティションを PLAR 接続先 B1 の電話番号に割り当てます (Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[コールルーティング (Call Routing)] > [電話番号 (Directory Number)] を選択します)。
- ステップ 5** SIP を実行している電話機の場合、SIP ダイアル ルールを作成します (Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[コールルーティング (Call Routing)] > [ダイアル ルール (Dial Rules)] > [SIP ダイアルルール (SIP Dial Rules)] を選択します。[7940\_7960\_OTHER] を選択します。パターンの名前 (PLAR1 など) を入力します。[保存 (Save)]、[PLAR の追加 (Add Plar)] の順にクリックします。[保存 (Save)] をクリックします)。
- ステップ 6** SIP を実行している電話機の場合、PLAR 用に作成した SIP ダイアルルール設定を電話機 (この例では A および A') に割り当てます (Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。[SIP ダイアルルール (SIP Dial Rules)] ドロップダウン リスト ボックスから SIP ダイアル ルール設定を選択します)。
-

## 制限事項

割り込みには、次の制限事項があります。

- 割り込みの発信側は、追加の発信者の会議に参加できません。
- パフォーマンスを強化するには、ビルトインブリッジを無効にするか、シェアラインピアランスを持たないデバイスや割り込みを使用しないデバイスでプライバシーをオンにします。
- CTI は、TAPI/JTAPI アプリケーションが呼び出す API を介した割り込みをサポートしていません。CTI は、[ 割り込み ] ソフトキーまたは [ C 割込 ] ソフトキーを使用して IP Phone から割り込みが手動で呼び出された場合に、割り込みのイベントを生成します。
- 割り込みが設定されたユーザに対しては C 割り込みを設定しないことをお勧めします。各ユーザに対して選択する割り込みメソッドは 1 つだけにしてください。
- 元のコールには G.711 コーデックが必要です。G.711 を使用できない場合は、代わりに C 割り込みを使用します。
- [ 割り込み ] ソフトキーを含むソフトキー テンプレートは、すべての IP Phone に割り当てることができます。ただし、割り込み機能をサポートしていない IP Phone もあります。
- 割り込みは、SIP を実行するほとんどの Cisco Unified IP Phone をサポートします。「[割り込みおよびプライバシーをサポートするデバイス](#)」(P.1-13) を参照してください。
- 割り込みに使用された電話機で暗号化が設定されていない場合、ユーザは暗号化されたコールに割り込むことができません。このケースで割り込みが失敗すると、ユーザが割り込みを行った電話機でビジー音が再生されます。

発信側の電話機に暗号化機能が設定されている場合、割り込み発信側は暗号化された電話機からの認証されたコールまたは非セキュア コールに割り込むことができます。割り込みが行われた後で、Cisco Unified Communications Manager はコールを非セキュアに分類します。

発信側の電話機に暗号化機能が設定されている場合、割り込みの発信側は暗号化されたコールに割り込むことができ、電話機にはコール状態が暗号化であることが示されます。

割り込みに使用された電話機が非セキュアである場合でも、ユーザは認証されたコールに割り込むことができます。発信側の電話機がセキュリティをサポートしていない場合でも、認証アイコンはコール内の認証されたデバイス上に継続して表示されます。



**ヒント** 割り込み機能が必要な場合は C 割り込みを設定できます。ただし、Cisco Unified Communications Manager は自動的にコールを非セキュアに分類します。

- Cisco Unified IP Phone 7960 および 7940 に暗号化機能を設定した場合、暗号化されたこれらのデバイスでは、暗号化されたコールに参加するときに割り込み要求を受け入れることができません。コールが暗号化されている場合、割り込みは失敗します。電話機では、割り込みが失敗したことを示すトーンが再生されます。

次の設定を試みると、Cisco Unified Communications Manager の管理ページにメッセージが表示されます。

- [ 電話の設定 (Phone Configuration) ] ウィンドウで、[ デバイスセキュリティモード (Device Security Mode) ] に [ 暗号化 (Encrypted) ] を選択し (システム デフォルトは [ 暗号化 (Encrypted) ] )、[ ビルトインブリッジ (Built In Bridge) ] 設定に [ オン (On) ] を設定し ( デフォルト設定は [ オン (On) ] )、この特定の設定を作成した後で [ 挿入 (Insert) ] または [ 更新 (Update) ] をクリックする。



- [エンタープライズパラメータ設定 (Enterprise Parameters Configuration)] ウィンドウで、Device Security Mode パラメータを更新する。
- [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウで、Builtin Bridge Enable パラメータを更新する。
- 会議内のシェアドライン ユーザの数が、割り込み試行を行っているデバイスの [コール最大数 (Maximum Number of Calls)] 設定の設定値以上の場合、電話機によって制限超過エラーを示すメッセージが表示されます。

プライバシーには、次の制限事項があります。

- パフォーマンスを強化するには、ビルトイン ブリッジを無効にするか、シェアドライン アピランスを持たないデバイスや割り込みを使用しないデバイスでプライバシーをオンにします。
- CTI は、TAPI/JTAPI アプリケーションが呼び出す API を介したプライバシーをサポートしていません。CTI は、Privacy 機能ボタンを使用して IP Phone からプライバシーが有効または無効にされた場合に、イベントを生成します。
- プライバシーは、SIP を実行するほとんどの Cisco Unified IP Phone をサポートします。「[割り込みおよびプライバシーをサポートするデバイス](#)」(P.1-13) を参照してください。

ビルトイン会議ブリッジには次の制限事項が適用されます。

- パフォーマンスを強化するには、ビルトイン ブリッジを無効にするか、シェアドライン アピランスを持たないデバイスや割り込みを使用しないデバイスでプライバシーをオンにします。
- 発信側はコールのパークやコールの転送を実行できません。また、CTI/JTAPI/TSP インターフェイスを介した機能も使用できません。システムがサポートするのは保留と保留解除だけです。
- ビルトイン会議ブリッジは、SIP を実行するほとんどの Cisco Unified IP Phone をサポートします。「[割り込みおよびプライバシーをサポートするデバイス](#)」(P.1-13) を参照してください。

Privacy on Hold には、次の制限事項があります。

- CTI は、TAPI/JTAPI アプリケーションが呼び出す API を介した Privacy on Hold をサポートしていません。CTI は、プライバシーが有効になっているコールが保留にされ、Privacy 機能ボタンを使用して IP Phone からプライバシーが有効または無効にされた場合に、イベントを生成します。

## 割り込み、プライバシー、および Privacy on Hold のインストールとアクティブ化

割り込みシステム機能、プライバシー システム機能、および Privacy on Hold システム機能は、Cisco Unified Communications Manager ソフトウェアに標準で備わっています。管理者は、システムで使用可能にするため、インストール後にこれらの機能をアクティブにします。次の各項目では、これらの機能のアクティブ化について説明します。

- 「[ビルトイン会議ブリッジでの割り込みのアクティブ化](#)」(P.1-18)
- 「[共有会議ブリッジでの C 割り込みのアクティブ化](#)」(P.1-18)
- 「[プライバシーのアクティブ化](#)」(P.1-18)
- 「[Privacy on Hold のアクティブ化](#)」(P.1-18)

## ビルトイン会議ブリッジでの割り込みのアクティブ化

ビルトイン会議ブリッジで割り込みをアクティブにするには、ソフトキー テンプレートに [ 割り込み ] ソフトキーを追加し、ソフトキー テンプレートをデバイスに割り当て、Builtin Bridge Enable サービス パラメータを [On] に設定し、Party Entrance Tone を [True] に設定します。ワンボタン割り込み機能をアクティブにするには、この機能を [ デバイスプロファイルの設定 (Device Profile Configuration) ] ウィンドウで有効にする必要もあります。詳細については、「[割り込みの設定チェックリスト](#)」(P.1-2) を参照してください。



(注) すべてのユーザに対してビルトイン会議ブリッジで割り込みを設定するには、Builtin Bridge Enable サービス パラメータを [On] に設定します。個々のユーザに対してビルトイン会議ブリッジで割り込みを設定するには、[ 電話の設定 (Phone Configuration) ] ウィンドウで [ ビルトインブリッジ (Built In Bridge) ] フィールドを [ オン (On) ] に設定します。

## 共有会議ブリッジでの C 割り込みのアクティブ化

共有会議ブリッジで割り込みをアクティブにするには、ソフトキー テンプレートに [C 割込] ソフトキーを追加し、ソフトキー テンプレートをデバイスに割り当て、Party Entrance Tone を [True] に設定します。ワンボタン C 割り込み機能をアクティブにするには、この機能を [ デバイスプロファイルの設定 (Device Profile Configuration) ] ウィンドウで有効にする必要もあります。詳細については、「[割り込みの設定チェックリスト](#)」(P.1-2) を参照してください。

## プライバシーのアクティブ化

Privacy Setting サービス パラメータが [True] に設定され、電話機のプライバシー設定がデフォルトの設定になっている場合、システムは自動的に Cisco Unified Communications Manager クラスタのプライバシーをアクティブにします。また、電話ボタン テンプレートにプライバシーを追加し、電話ボタン テンプレートをデバイスに割り当てる必要があります。詳細については、「[プライバシーおよび Privacy on Hold の設定チェックリスト](#)」(P.1-4) を参照してください。

## Privacy on Hold のアクティブ化

Enforce Privacy Setting on Held Calls サービス パラメータが [True] に設定され、電話機にプライバシー機能が設定されている場合、システムは自動的に Cisco Unified Communications Manager クラスタの Privacy on Hold をアクティブにします。詳細については、「[プライバシーおよび Privacy on Hold の設定チェックリスト](#)」(P.1-4) を参照してください。

## 割り込み、プライバシー、および Privacy on Hold の設定

この項の内容は次のとおりです。

- 「[割り込みの設定チェックリスト](#)」(P.1-2)
- 「[プライバシーおよび Privacy on Hold の設定チェックリスト](#)」(P.1-4)
- 「[割り込み、プライバシー、および Privacy on Hold 用のサービス パラメータの設定](#)」(P.1-19)



ヒント

割り込みまたはプライバシーを設定する前に、「[割り込みの設定チェックリスト](#)」(P.1-2) および「[プライバシーおよび Privacy on Hold の設定チェックリスト](#)」(P.1-4) を参照してください。

## 割り込み、プライバシー、および Privacy on Hold 用のサービスパラメータの設定

Cisco Unified Communications Manager には、クラスタ全体のサービスパラメータが5つあります。ビルトイン会議ブリッジ機能用の Builtin Bridge Enable、プライバシー機能用の Privacy Setting、Privacy on Hold 機能用の Enforce Privacy Setting on Held Calls 設定、ワンボタン割り込み /C 割り込み機能用の Single Button Barge/cBarge Policy、および割り込み中に再生されるビープ音用の Party Entrance Tone です。

- Builtin Bridge Enable : デフォルトでは [Off] に設定されています。このパラメータは、[ 割り込み ] ソフトキーを使用する電話機でビルトイン会議ブリッジ機能を有効または無効にします。このパラメータは、Cisco CallManager サービスが使用されており、割り込みが設定されたクラスタ内の各サーバに対して設定します。[ 電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで [ ビルトインブリッジ (Built In Bridge)] が [ オン (On)] に設定された場合、サービスパラメータ設定は上書きされます。
- Privacy Setting : デフォルトでは [True] に設定されています。このパラメータは、シェアードラインアピアランスに関する情報を表示しない電話機ユーザに対してプライバシー機能を有効または無効にします。このパラメータは、Cisco CallManager サービスが使用されており、プライバシーが設定されたクラスタ内の各サーバに対して設定します。特定の電話機だけでプライバシー機能が必要な場合は、このサービスパラメータを [False] に設定し、[ 電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [ プライバシ (Privacy)] フィールドを [ オン (On)] に設定します。  
[ 電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [ プライバシ (Privacy)] フィールドがデフォルトに設定されている場合、電話機は Privacy Setting サービスパラメータの設定を使用します。
- Enforce Privacy Setting on Held Calls : デフォルトでは [False] に設定されています。このパラメータは、Privacy on Hold のコールを維持しない電話機ユーザに対して Privacy on Hold 機能を有効または無効にします。このパラメータは、Cisco CallManager サービスが使用されており、プライバシーが設定されたクラスタ内の各サーバに対して設定します。
- Single Button Barge/cBarge Policy : デフォルトでは [Off] に設定されています。このパラメータは、回線ボタンを押すだけで割り込みまたは C 割り込みの機能を使用できるように求める電話機ユーザに対して、ワンボタン割り込み /C 割り込み機能を有効または無効にします。このパラメータは、Cisco CallManager サービスが使用されており、プライバシーが設定されたクラスタ内の各サーバに対して設定します。
- Party Entrance Tone : デフォルトでは [False] に設定されています。このパラメータは、割り込み中に再生されるビープ音を有効または無効にします。このパラメータは、Cisco CallManager サービスが使用されており、割り込み (ビープ音付き) が設定されたクラスタ内の各サーバに対して設定します。

## 関連項目

- Cisco Unified IP Phone の管理資料 ( Cisco Unified Communications Manager 用 )
- Cisco Unified IP Phone のユーザ資料とリリース ノート
- 「割り込みの設定チェックリスト」( P.1-2 )
- 「プライバシーおよび Privacy on Hold の設定チェックリスト」( P.1-4 )
- 「割り込み、プライバシー、および Privacy on Hold の概要」( P.1-6 )
- 「割り込み、プライバシー、および Privacy on Hold のシステム要件」( P.1-12 )
- 「インタラクションおよび制限事項」( P.1-14 )
- 「割り込み、プライバシー、および Privacy on Hold のインストールとアクティブ化」( P.1-17 )
- 「割り込み、プライバシー、および Privacy on Hold の設定」( P.1-18 )
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「電話ボタン テンプレートの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「ソフトキー テンプレートの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「エンドユーザの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「サーバ上のサービスに対するサービス パラメータの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「電話ボタン テンプレートの設定値」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unified IP Phone」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「プログラム可能な回線キー」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「電話番号の設定値」
- 『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』